

第11回 オートモーティブワールドに出展



展示会の様子

詳細は、以下のホームページを参照ください。

<http://www.nssmc.com/product/use/car/>

※1 グループ会社の日鉄ケミカル&マテリアル(株)、日鉄住金テックスエンジ(株)、日鉄住金テクノロジー(株)なども技術・製品を共同出展

※2 EV・HEV 駆動システム、自動運転、カーエレクトロニクス、コネクティッド・カー、軽量化、部品加工

新日鉄住金は、EV・HEV 駆動システム技術展で「使命。クルマの未来を、デザインする。」をメインコンセプトに、鉄を主体としたマルチマテリアル化の追求と次世代自動車に求められる総合的なソリューションを提案。構造コンセプト「ZSafe®-AutoConcept」を初出展しました。また、久保祐治執行役員がコンセプトの説明や、アルミ車と同等の軽量化を実現する鉄鋼材料について講演を行いました。

新日鉄住金は、1月16～18日に東京ビッグサイトで開催された「第11回 オートモーティブワールド」に出展しました(※1)。

本展示会は、自動車業界における重要な6テーマ(※2)の技術展で構成され、出展企業が1100社を超える世界最大級の展示会です。



講演の様子

国指定の名勝で
初のチタン材採用

このたび、新日鉄住金のチタン材が宮崎県の鶴戸神社住吉神社の屋根材として採用され、江口板金工業(株)施工のもと屋根葺き替え工事が完了しました。鶴戸地区一帯は国の名勝に指定されており、本工事はチタンが名勝内建築物の建材用途として採用された初事例となります。

チタン材が採用されたのは、国定公園日南海岸内にある鶴戸神社・洞窟内本殿脇の住吉神社と、楼門近くの吾平山上陵の看板屋根。塩害に強く長期的に建物を保護し、維持管理費用の軽減に貢献する点に加え、伝統建築にふさわしい緑青発色チタンの外観が評価されました。

今後も国内で同様の課題を持つ沿岸部の建築物への適用拡大を進め、伝統建築の保護に貢献していきます。



葺き替え工事前の住吉神社屋根



チタン葺き替え工事後の住吉神社

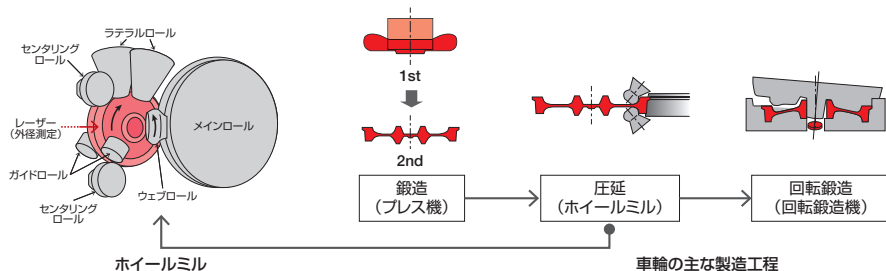
24時間対応可能な
自社保育所の設置拡大

新日鉄住金は、スタッフ職場、操業・整備職場を問わず、高齢者や女性など多様な人材がより一層活躍できる職場環境を整備する観点から、さまざまな施策を推進してきました。この施策の一環として、交替職場で働く社員のニーズにも対応可能な自社保育所を広島製鉄所に開設します。大分、君津、八幡、名古屋製鉄所に続く5カ所目の自社保育所で、いずれの施設も交替勤務社員の利用が始まる時点で24時間保育を開始予定。大分製鉄所では2018年1月より24時間保育を実施しています。

新日鉄住金は、出産・育児期にある社員も含めた多様な人材が活き活きと働くことができる職場、活力ある企業を実現するべく、今後も就労支援施策の充実を図っていきます。



広島あおぞら保育園イメージ図(2019年4月開園予定)



新日鉄住金は、国内唯一の鉄道用車輪製造メーカーとして、鉄道車両の安全性・信頼性向上に寄与する取り組みを継続していきます。

新日鉄住金は、国内唯一の鉄道用車輪製造メーカーとして、鉄道車両の安全性・信頼性向上に寄与する取り組みを継続していきます。

ホイールミルの設備強化対策について

新日鉄住金は、2020年中期経営計画の主要施策の1つである「国内マザーミルのつくる力の継続強化」の一環として、交通産機品事業部製鋼所における車輪製造の圧延設備であるホイールミルの全面更新を決定しました。21年春をめどに世界最新鋭のホイールミルを導入し、新日鉄住金独自の回転鍛造技術と組み合わせることで、圧延精度および品質レベルのさらなる向上を目指します。また、より高品質で高付加価値製品の安定供給を目的とした製造基盤および欧州規格への対応力を強化し、グローバル化を加速していきます。



君津製鉄所のプラスチックリサイクル設備

プラスチックリサイクル累計300万トン達成

新日鉄住金は、2000年よりコークス炉化学原料化法によるプラスチックリサイクルに取り組んでおり、このたび18年11月14日に累計リサイクル量で300万トンを達成しました。コークス炉化学原料化法はプラスチックを高温度で乾留するため有害物質の残留がなく、コークス炉や化学工場などの既存の設備、プロセスを有効利用しているため、リサイクルの効率性、質、安全性に優れた手法です。300万トンによる環境負荷削減効果は、CO₂削減として約960万トン、埋め立て処分回避としては約1200万立方メートルとなります。

今後もコークス炉化学原料化法による取り組みを通じて、省エネ・CO₂削減、循環型社会の形成に貢献していきます。



当該構造部品が採用される新型MAZDA3 (画像提供: マツダ株式会社)

1310MPaハイテンが車体構造部品として世界初採用

新日鉄住金はマツダ(株)と共同で、1310MPa級高張力冷延鋼板(1310MPaハイテン)を用いた車体構造用冷間プレス部品の開発に取り組み、マツダ新型MAZDA3に、世界で初めて採用されました。

新日鉄住金がプレス成形時に発生する割れやしわを抑制し、良好な部品寸法精度を確保する工法を開発。また、マツダと共同で生産技術面および性能面の課題を解決したことで、1310MPaハイテンの車体構造部品への採用につながり、新型MAZDA3の軽量化および衝突安全性の向上に貢献しました。

今後もハイテン材のさらなる高強度化および適用範囲の拡大により、自動車の一層の軽量化、衝突安全性の向上に貢献していきます。



『季刊 新日鉄住金』バックナンバー

これまで鉄道、船、橋、缶、車などをテーマに特集を組んできました。QRコードを読み取ることで、バックナンバーをご覧いただけます。
<http://www.nssmc.com/company/publications/quarterly-nssmc/index.html>

■ お詫び 本誌Vol.24のP16掲載 図1単位「億t-CO₂/年」は、「億tC/年」の誤りでした。訂正いたします。